

topic

1

日本女子大学「家政学部賞」

日本女子大学 家政学部では、私たちの生活をより合理的で豊かなものにするために、家庭生活や生活環境に関わる諸問題を自然科学的・人文科学的・社会科学的に探求し、人類の福祉に広く貢献する個人および団体の活動を奨励することを目的として、2008年に「日本女子大学家政学部賞」を創設し、受賞者を表彰しています。

今回は、下記の個人・団体が受賞し、2014年10月23日に受賞記念講演会と授賞式が行われました。

第7回 受賞者

タマネギの催涙性研究グループ

(ハウス食品グループ本社(株)、ハウスウェルネスフーズ(株)、石川県立大学、法政大学)

生活に密着した基礎科学の発展に対する貢献に対して

東京R不動産

東京R不動産のインターネットサイトを通じて建築・不動産の新たな価値を発見し、情報発信する取り組みに対して

「Waelaa Waaree(ウエラワラー)」

(国際結婚をした外国籍とその子どもの生活支援団体)

若結婚や家庭、子どもにかんする問題を抱える在日外国人女性を支援する活動に対して



「家政学部賞」住居学分野の受賞

第7回(2014年度) 家政学部賞

東京R不動産

建築・住居の品質について、よりよいものをつくることを設計者は常に意識しているが、それらの価値の発信はこれまで不動産会社を通じた、マーケティング重視の思考で発信されてきた。マンションなどでは豪華で都会的なライフスタイルと利便性の提案、多くの設備機器の設置等が情報の中心となり、間取りや立地、住環境の価値については、多くの消費者に受け入れられる一般性を重視した情報発信がなされている。それらにこだわることなく本事業は、立地・住環境・建築としての新たな価値を見だし、その土地に住むこと、働くことに対する新たな視点から建築物の価値を発見している。そして関心をもつ人々にユニークな形で情報発信するメディアとして活動を重ねてきた。それらの活動範囲・影響は東京にとどまらず、さまざまな地域へと広がっている。これらの先進性から、本事業がもつ新たな開拓者としての役割は大いに評価される。

また建築・デザイン・住宅などの多様な分野からアプローチし、建築・不動産・マーケティング等を包括的に取り扱うディレクターがプロジェクトを推進し、それぞれの業界の境界を超越している。こうした新たな形で提案する取り組みをする人々、新たな価値を発見し伝えるコミュニケーター、コーディネーターとしての専門家を生み出したことは、これまでに存在していなかった職域・職能を生み出している点でも評価される。

このように常に独創的な視点で不動産・住居の価値を発見し、新たな住まい方、賃貸住宅などが生まれることは、多様で豊かな住生活につながる。これらの点は、本学住居学科の常に生活者の視点から豊かな環境を創造しようとする家政学の理念にも合致している。

これらの点から、東京R不動産という情報発信メディアの先進性、組織としての働き方のオリジナリティ、専門家としての職能の創造などの面について高く評価する。

過去の受賞

第1回(2008年度)

渡辺 篤史 氏と

テレビ朝日「渡辺篤史の建もの探訪」

長年にわたり、住まい手の目線に立って優れた住宅建築を広く一般に紹介してきた功績に対して

第2回(2009年度)

アレックス・カー氏 (東洋文化研究者 株式会社 庵 取締役会長)

日本の伝統的住宅と暮らしの魅力を外国人の目から「再発見」し、「現代的に生かす」ことの豊かさを提示する実践的活動に対して

第3回(2010年度)

竹原 義二 氏 (無有建築工房)

構造美や素材美を手仕事によって追求し、丁寧な質の高い住宅設計を続けてきたことに対して

第4回(2011年度)

特定非営利活動法人「I Loveつづき」

市民グループの立場から子ども防災キャンプ「サバイバルジュニア」を企画し、産・官・学の協同で実施した実践的活動に対して

第5回(2012年度)

株式会社竹中工務店「安心設計」開発チーム

「安全」から「安心」への構造設計思想の変革に基づき、居住者の安心感を醸成する新しい構造設計手法の開発に対して

第6回(2013年度)

特定非営利活動法人 コドモ・ワカモノまちing

子ども・若者が主体的に参画する環境づくりの取り組みに対して



例年新宿区が主催するアートの祭典の、建築系大学が多く参加する空間デザイン部門アートコンペティションにて、昨年の最優秀賞に続き「新宿、あるいは『誰か』のコレクション」が優秀賞を受賞しました。(http://www.scf-web.net/)



作品について

「新宿コレクション」という今年のテーマに対して、私たちは立体の文字で構成された新宿のビル群を作成しました。新宿には、超高層のビルが林立する都市のイメージとともに、思い出横丁やゴールデン街などどこかまだ敗戦後の焼け跡の影やその強烈なエネルギーが感じられます。アングラ文化を育んだ強烈な個人の存在と、新宿で栄えた活版産業からインスピレーションを得て、文字というメディアを用いて新宿に見え隠れする都市と個人の名前をコレクションしました。

モア4番街での展示では、作品の中から自分の名前を発見し、コンセプトである『誰か』=あなた、に気づいてもらえる瞬間を実際に目にする事が出来ました。それは、都市における存在の「無名性と記名性」という普遍的な関係のコレクションでもあります。

作品の一部は、研究室の欄間に飾ってあるので、ぜひ見てください。

お手伝いいただいたみなさま、ありがとうございました。

(宮晶子研究室 袴田千晶、半田千尋、福山真由)

住居学科 宮 晶子准教授の作品「食堂の壁」が 建築雑誌 2誌に掲載されました

宮晶子准教授の最新作「食堂の壁」が新建築2014年9月号とJA 96 winter YEAR BOOK 2014に掲載されました。YEAR BOOKとは、新建築に一年間に掲載された作品の中から新建築が厳選して掲載するものです。

是非、図書館で手にとって見てください！

作品について

埼玉県深谷市のロードサイドに建つ飲食店です。食堂は、見知らぬ人々が限られた時間に偶然居合わせる場所です。また家の中のように居場所を求め自由に動き回ることもできません。そこで、これまでのように「壁」がつくる見え隠れを用いながらも極座標による離散配置ではなく、木造モジュールのグリッドを用いながら大きさと角度の異なる「壁」と2種類の「隙間」がつくる現象が主題となる構成としました。それらは直射光を遮りながら柔らかな光を導き、テーブルごとに場の独立性を与え、それぞれを異なる外の風景に開いていきます。林立する壁は入口からは奥へといざなう木立のようでもあり、席につけば洞窟の壁面のような掘り所へと変容します。

(宮 晶子)



©Shinkenchiku-sha